

民主党から見る「政治」

0. はじめに

2005 年 9 月 11 日の総選挙で、「郵政民営化」を一大争点に仕立て上げ、小泉純一郎氏率いる自民・公明連立政権が圧勝したことはいまだ記憶に新しい。一方、野党第一党の民主党は結党以来の大敗北を喫した。その後、40 代と若手の前原誠司氏を代表に据え、党の抜本改革・再建を図るも、今年 2 月に入ってからライブドア送金指示メール騒動での対応を見誤り、党の混迷を招いたことも、各メディアの報道でご承知のことと思う。

前置きが長くなったが、僕がなぜ「民主党」に取り組もうと思ったのかというと、大きく、以下の 2 つの理由が挙げられる。

- 野党第一党として民主党にできることは何か
- 現代政治を考える一歩としたい

上記の答えを本企画で果たせているかは、甚だ心許無い。賢明な会員のご批判を仰ぐしかないが、何はともあれ、始めていきたい。

1. 民主党の歴史

1996 年 9 月 29 日 民主党（第一次民主党） 結成

→初代代表は菅直人・鳩山由紀夫両氏が就任（二人代表制）

⇒衆院 51 人、参院 5 人の計 56 人の勢力で出発。

1996 年 10 月 20 日 第 41 回総選挙（総定数 500）

→52 議席獲得（小選挙区 17 議席、比例区 35 議席）

1997 年 12 月 27 日 新進党 解党

→小沢一郎氏率いる「自由党」など 6 つのグループに分裂。

1998 年 4 月 27 日 新・民主党（第二次民主党） 結成

→代表には菅直人氏、幹事長には羽田孜氏が就任。

⇒衆院 93 人、参院 38 人の計 131 人の勢力で出発。

1998 年 7 月 12 日 第 18 回参議院選挙（総定数 252）

→改選議席数 18→27 計 47 議席

2000 年 6 月 25 日 第 42 回総選挙（総定数 480、以下同じ）

→127 議席獲得（小選挙区 80 議席、比例区 47 議席）

2001年7月29日 第19回参議院選挙 (総定数247)

→改選議席数22→26 計59議席

2003年9月26日 民主党・自由党 合併 (第三次民主党)

→衆院137人、参院67人の計204人の勢力で出発。(党名、綱領等は民主党のものを踏襲。)

2003年11月9日 第43回総選挙

→177議席獲得(小選挙区105議席、比例区72議席)

⇒戦後政治史上、野党として最大勢力を獲得。

2004年7月11日 第20回参議院選挙 (総定数242)

→改選議席数38→50 計82議席

⇒獲得議席数で自民党(50→49)を上回る。

2005年9月11日 第44回総選挙

→113議席(小選挙区52議席、比例区61議席)と大敗。

＜参考資料1＞ 歴代の民主党代表

第一次民主党代表		
代	代表	任期
1	菅直人 鳩山由紀夫	1996年9月28日～1997年9月16日
2	菅直人	1997年9月16日～1998年4月27日
第二次民主党代表		
代	代表	任期
1	菅直人	1998年4月27日～1999年9月25日
2	鳩山由紀夫	1999年9月25日～2002年12月10日
3	菅直人	2002年12月10日～2004年5月18日
第三次民主党代表		
代	代表	任期
1	岡田克也	2004年5月18日～2005年9月17日
2	前原誠司	2005年9月17日～2006年4月7日
3	小沢一郎	2006年4月7日～

民主党代表 (出典：フリー百科事典『ウィキペディア』) より一部改変・作成

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%91%E4%B8%BB%E5%85%9A%E4%BB%A3%E8%A1%A8#.E6.B0.91.E4.B8.BB.E5.85.9A.E4.BB.A3.E8.A1.A8.E3.81.AE.E4.B8.80.E8.A6.A7> 最終更新・確認日 6月7日現在【敬称は省略】

2. 民主党の混迷

ここぞという時に、党内の混乱が収まらず、与党を追い詰める事が出来ないことが多々ある民主党。その原因はどこにあるのかということ进行分析すると、おおよそ以下の 3 つに分けられると思う。

- 寄り合い所帯であること
- ネットワーク型政党を標榜していること
- “風” 頼みの選挙戦であること

＜参考資料 2＞ 民主党の派閥（グループ）

政策勉強会別グループ	グループの中心人物
政権戦略研究会（約 10 人）	羽田孜
政権交代を実現する会（約 40 人）	鳩山由紀夫
民社協会（約 30 人）	川端達夫
一新会（約 40 人）	小沢一郎
国のかたち研究会（約 30 人）	菅直人
新政局懇談会（約 20 人）	横路孝弘
凌雲会（? 人）	前原誠司・枝野幸男
志士の会（? 人）	野田佳彦
リベラルの会（? 人）	平岡秀夫

民主党の派閥（出典：フリー百科事典『ウィキペディア』より一部改変・作成

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%91%E4%B8%BB%E5%85%9A%E3%81%AE%E6%B4%BE%E9%96%A5> 最終更新・確認日 6 月 7 日現在

朝日新聞 2006 年 4 月 3 日 朝刊【敬称は省略】

3. 小沢民主党のスタンス

まず、第一に小沢氏自身の変化について見ていくことにする。

- 選挙向けのパフォーマンス（自転車遊説など）
- 記者会見時の対応（笑顔・丁寧さを心がける）
- 党内の意見に耳を傾け、意見を採用しようと努力
- 政策論の若干の変更

次に、変化していない部分を見ていくと

- 主要会議への頻繁な欠席（衆院本会議、党代議士会など）
- 自身の日程の非公表
- 要人との会談の内容の非公表（創価学会会長との会談）

（朝日新聞 2006 年 5 月 8 日 朝刊）

4. むすびにかえて 一私見による民主党論一

- 「市民」、「リベラル」の党としての定義づけ
- 対案、対決路線の折衷
- 日常活動の活発化⇒支持基盤の拡大・定着へ
- 足元の課題の直視
- 保守層だけでなく革新層へもウィングを

[参考文献]

- 山口二郎 『戦後政治の崩壊』 岩波新書 2004 年
大嶽秀夫 『日本政治の対立軸』 中公新書 1999 年
石川真澄 『戦後政治史 新版』 岩波新書 2004 年
早野透 『日本政治の決算』 講談社現代新書 2003 年
伊藤惇夫 『政党崩壊』 新潮新書 2003 年
加藤秀治郎 『日本政治の座標軸』 一藝社 2005 年
- 菅直人 『総理大臣の器』 幻冬舎 2003 年
エクスプロア・ジャパン編 『もう一つの国づくり』 プラネット出版 2000 年
石井一 『民主党政権前夜』 自由国民社 1999 年
中桐伸五 『1 票で首相が代わる！』 主婦の友社 1998 年
藁科満治 『民主リベラルの政権構想』 日本評論社 1997 年
鳩山由紀夫・菅直人 『民益論』 PHP 研究所 1997 年
五十嵐ふみひこ 『これが民主党だ！』 太陽企画出版 1996 年

『朝日新聞』（朝日新聞 聞蔵 DNA for Libraries を含む）

『時事ニューズワード 2002、2003、2004、2005、2006』 時事通信社
2002 年、2003 年、2004 年、2005 年

[参考ウェブサイト]

民主党ウェブサイト (<http://www.dpj.or.jp/>)
ウィキペディア フリー百科事典
(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>)